

テーマ

ふるさと探検隊～ひとゴトからわがコト（事・子と）へ～

公民館等名

邑南町 田所公民館

テーマの背景

面積が約80km²と町内で一番広く、住宅が中心地に集中しており山間部の集落の人口が減少している。また、その中に24集落と5自治会があるため立地的に公民館として一つにまとめることはなかなか難しい現状がある。その中、「地域の子どもは地域で育てる」を合い言葉に、地区内の有志の大人で「地域学校ハンザケ」を結成し、地域をフィールドに体験的な活動をとおして子ども達に様々な活動を実施している。しかしながら、役員が高齢であるとともに、参加児童の保護者世代の公民館活動への参加の希薄化、無関心化があり今後の持続が危ぶまれる。この保護者世代をいかに取り込んでいくかが課題である。

実際の取組

取組内容：竹竿を作って釣りにでかけよう

<取組の概要>

目的：地域の川の魅力を体験しそこに住む生き物について学ぶ。

竹竿づくりをとおして道具の使い方や技術を学ぶとともに世代間交流を図る。

内容：第1回目は、子どもに竹竿のつくり方を教えるために保護者を対象に、地域の釣り名人から竿の作り方を指導していただいた。子ども対象のイベント当日は、地域学校の先生と保護者が一緒になって竹竿の作り方を教え作成した。また、その後、近所にある自然館に行き、学芸員の方から地域の川に住む生き物について説明をしてもらった。

第2回目は、イベント前日に、保護者を募り、生け簀とそうめんながし台を地域の方に教わりながら作成した。釣りイベント当日は、地域にある遊びやすくあまり参加者が知らない川に行き釣りをした。その後、公民館に戻り、その川で釣るはずだったヤマメのつかみ取りを実施し、その後にそうめんながしとヤマメの塩焼きを食べた。



釣り竿作成の指導



川に住む生き物の話



釣り竿の作成中



地域の川での魚釣り



ヤマメのつかみどり

<成果と課題>

保護者が釣り竿、生け簀、そうめんながしの作り方を地域の方から教わり準備段階から携わることで、子ども対象のイベントの当日一緒に参加する保護者が増え、地域学校の事業を我が事として捉えることができた。（参加率昨年度比1.7倍）また、地域の川の魅力を知り親子で体感すると同時にその川に住む生き物のことを学ぶことができた。大人が地域で色々な体験をすることで、子どももそれに続き、好循環ができていく。今後は、この保護者世代を地域学校の単発的なイベントだけではなく、地域や公民館の活動へと結びつけていく仕掛けが必要である。

実際の取組

取組内容：地域にある身近なお宝をみつけよう

<取組の概要>

目的：普段、車で通っていると気づかないようなお宝（ヒト・モノ・コト）が地域にはたくさんあり、それを知ることでふるさとに愛着を持つ。また、そのお宝を後世へと受け継いでいく。

内容：地域の知識人にアドバイスをいただきながら、公民館活動推進委員で自治会単位のお宝マップと集落単位のじげ自慢（自分の集落で自慢できるモノ・コト）マップを作成した。それを、公民館まつりで掲示し600人を超える来場者にみてもらった。その後も公民館に掲示し住民に向けて発信をしている。また、このお宝マップを活用して「地域学校ハンザケ」のイベントを実施し、お宝巡りを計画した。しかしながら、雨天によりマップの説明会のみ実施した。



お宝マップ



じげ自慢マップ



「地域学校ハンザケ」での説明



<成果と課題>

お宝マップ、じげ自慢マップを作る際、知識人からアドバイスをいただくことで、身近に暮らしている人たちが知らなかったことがたくさんあり地域についての知識が深まった。それを公民館に掲示することで大人から子どもまで様々な年代の人たちが立ち止まり、会話や気づきが生まれていた。「ここにはなんもないで」から、「ここにしかないものがたくさんあるで」という意識改革につながった。

マップを飾るだけではPRが弱いのでよりたくさんの住民の方々に周知していく必要がある。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

・児童の保護者世代をいかに取り込んでいくかが課題であった。年度初めに、「自治会の子ども会との会議を設定し協力を求めたこと」、「保護者にイベント時に役を当て携わってもらうよう仕掛けたこと」、「準備段階から協力をお願いしたこと」などをとおして保護者の参加率が上がり、我が事として考えてもらえるきっかけとなった。また、この活動をとおして公民館と保護者との距離も縮まり、公民館に立ち寄ってもらう機会が増えた。

今後の展望

・保護者世代と構築した関係を保護者伝いで更に他の保護者にも広げることで、より沢山の子ども達に参加してもらい、ふるさとに愛着をもってもらいたい。また、保護者には「地域学校ハンザケ」の事業だけではなく、これを契機に地域づくりに積極的に参画してもらえよう機運を高めていきたい。

・お宝マップを活用して「見る」だけではなく、実際にその場に出向き「体感する」お宝巡りを大人と子どもを対象に行っていき、地域の誰もが自分の地域に誇りを持てるように役立てていきたい。

(文責：主事 奈須 圭嗣)